

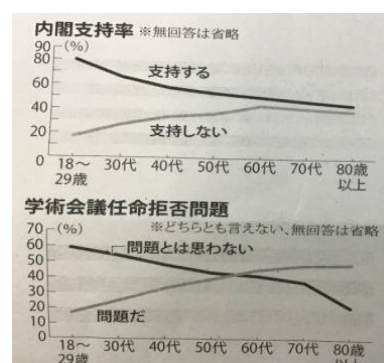
## 若者ほど「内閣支持」

写真は3連休最終日の11月23日午後、大阪市の心齋橋近くの「アメリカ村」。通称「三角公園」と呼ばれる周辺は若者で一杯だった。西長堀の大阪市立中央図書館の帰り、堀江界限からアメリカ村へ。急に風景が変わり、場違いな感じがして、足早に地下鉄に向かった。地下鉄のなかで、あの若者たちについて考えをめぐらした。



そんなこともあり、翌日24日の毎日新聞朝刊の表題記事に目がとまった。写真の内閣支持率と学会議任命拒否問題の年代別の違いに注目。記事を抜粋して紹介したい。

毎日新聞と社会調査研究センターが今年7日に実施した全国世論調査では、世代間の意識の差がくっきりと表れた。内閣支持率は若い世代ほど高く、年齢が上がるにつれて減少。菅義偉首相による日本学術会議の会員候補の任命拒否は「問題とは思わない」との回答が若年層ほど高かった。米大統領選では、若者ほどトランプ大統領が当選した方が日本にとって好ましいと答えた。一体なぜなのか、背景を探った。



社会調査研究センター社長の松本正生・埼玉大教授＝政治意識論によると、1980年代後半まで、自民党の支持率は若い世代ほど低く、グラフは「右肩上がり」の線を描いた。今とは正反対だ。今回の結果について「若い世代の『今を変えたくない』『変わってほしくない』という『現状維持』の志向が表れている。『保守』というよりも『保身』と言うべきで、政治的な意味での保守化とは次元が違うのではないかと指摘する。

若者の「現状維持」思考は何が要因なのだろうか。「若者保守化のリアル」などの著作がある中西新太郎・関東学院大教授＝社会学は、「意識調査をすれば、若い世代は日本社会の将来について明るい見通しを持っていない人が多数派だ。現状は格差社会で『生きにくい社会』だ。それでも、若者が現状維持志向なのは『これ以上ひどくならないように』との思いからだ」と語る。

中西教授によると、若い世代は「ルール」や「秩序」を重視する傾向があるという。今の生活がより悪くならないよう、守ってくれているのが「ルール」や「秩序」という発想だ。「現在の『ルール』や『秩序』をつかさどっているのが、菅内閣であり自民党というイメージがある。若い世代の内閣や自民党への支持は、『政治を動かしているのは菅内閣、自民党でしょ』ぐらいの感覚なのではないか」と推測する。

(2020年11月29日)